

新商品開発とイベントマネジメントを通じた 武蔵地区商店街の活性化支援

団体名 ● 岡ゼミナール / 代表者名 ● 岡達哉 (経済学部教授)

はじめに

金沢星稜大学(以下「本学」)と金沢中心商店街武蔵活性化協議会(以下「武蔵活性化協議会」)は2017年1月、武蔵地区商店街のさらなる活性化及びまちづくりの推進と、連携を通じた本学学生・教員の教育研究活動の発展を目的として連携協定を締結した。

2018年2月に開催された武蔵活性化協議会第4回事業戦略部会で、地域連携活動については経済学部経営学科教授岡達哉が本学の窓口を務める旨、全員一致で了承された。また、同年3月に開催された武蔵活性化協議会第7回販売促進企画部会では「金沢星稜大学との連携事業(星大連携事業)」については、あまり細かな制約を設けず、武蔵活性化協議会と岡教授の間で協議し、地域商店街の若手との交流を進め、学生の立ち位置も明確化する」とこととされた。

活動内容

2019年度の地域連携活動として2019年10月26日(土)、「むさしハロウィン」が開催され、経済学部経営学科「岡ゼミナール」(以下「岡ゼミ」)と「洋菓子工房ドルチェ・カンパーニュ」とのコラボにより開発した新商品のスイーツを販売した。その際、オリジナルの商品ロゴについても店舗側の了解を得て岡ゼミ生がデザインした。学生達は2時間で260個を売り上げ、1日限りの限定販売の予定だった商品は季節限定商品に昇格するに至った。



Fig. 「洋菓子工房ドルチェ・カンパーニュ」店内で徳田店長と新商品開発に励む岡ゼミ学生達

その他、活動の詳細は本学HPを参照されたい。
(「【経済学部／岡ゼミナール】スイーツ開発&イベントプロデュース」<http://www.seiryu-u.ac.jp/u/new/2019/11212019.html>)

成果、結果の考察

まちづくりという長期的課題に対し、イベントや商品開発が果たす役割はおのずと限界がある。しかし本年度、岡ゼミの学生が集客のためのイベントの企画・実施や店舗との企画検討等の諸活動に積極的に参加し、地元企業とのコラボレーションを通じて新商品開発のプロセスにかかわり、ゼミのテーマである「ホスピタリティ」を遺憾なく発揮したことで、経験価値を通じた学生自身の学習はもとより本学と地域との信頼関係をさらに深めたものといえる。

今後の課題、展望

武蔵活性化協議会は、金沢駅と香林坊・片町地区の中間地点に位置する「武蔵が辻」を中心に、近江町市場商店街、百貨店「めいてつエムザ」を核とした武蔵商店街、老舗が多い尾張町商店街、東別院の参道として発展した横安江町・彦三商店街の5つの商店街で構成されており、武蔵地区全体としての統一のアイデンティティの再構築が課題として見受けられる。一方で学生の代替わりは不可避であり、活動が所与の成果を挙げるためには、関係者間の一層の意思疎通と、形に残る活動の積み重ねを通じて「武蔵らしさ」(センス・オブ・プレイス)の明確化を図っていくことが鍵といえる。

この場をお借りして、平素から本学との地域連携推進にご尽力くださっている武蔵活性化協議会の中島祥博会長様、学生参画型の新商品開発にご理解ご協力を賜った「洋菓子工房ドルチェ・カンパーニュ」の徳田店長様、かなざわハロウィンの総合事務局として本学学生の活動に特段のご配慮を賜った(株)アドマックの前田拓磨様に心より感謝申し上げます。